

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600743		
法人名	医療法人社団 廣仁会		
事業所名	ふるさと おいわけ・西棟		
所在地	勇払郡安平町追分中央1番地41		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ホームは入所者様のためにある」を基本姿勢に掲げ、職員一丸となり日々取り組んでいる。又、入居者様の自立支援とは何かを職員全員で考え、一人ひとりが役割をもった充実した生活を笑顔で過ごすことができる様支援している。日々の関わりを大切に、入居者様が何を望み、何に困っているかなどをアセスメントし不自由のない生活が送れる事を常に追求している。
ホーム内はラウンジを中心に東西ユニットに分かれている為いつでも自由に入居者様が東西のユニットを行き来できる環境にある。広い中庭もあり夏場は職員手作りのパークゴルフ場でパークゴルフを楽しんだり、バーベキューを行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0173600743-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成26年 2月 1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まごころ家族のようにを施設の運営理念としスタッフルームに掲示し職員で共有し実践している。又、西棟ケア理念も作成しユニット内に掲示し、実践を心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に積極的に参加したり、地域のボランティアの訪問を受けたりし交流に心掛けている。日常的には地域での買い物や外食、美容室への送迎を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営促進会議で意見交換をしているが、地域への貢献はなかなか難しくこれからの課題である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し報告書を全職員に回覧しサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に施設長がおこない協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や外部研修を通じ身体拘束をしないケアを徹底して行っている。玄関の施錠に関しては、職員の体制と外部からの安全性を考慮し、ご家族全員の了解を得て夜間帯のみ施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部研修を通じ虐待について学ぶ機会を持ち虐待防止を徹底している。又、管理者は常に虐待につながる様な不適切なケアが行われないように日常的に職員の教育に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、東西合わせて2名が成年後見人制度を利用しているが全職員が制度に対する理解をするには至っていないのが現状である。管理者は研修で学んでいるので必要に応じ活用出来る様さらに自己学習が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に施設長が行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に施設長や管理者が行っており、ご家族様には来訪時に現在の状態を報告したり、意見や要望を聞き運営に反映している。又、入居者様にも日常的に要望などを聞きケアに活かしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議や3カ月に1度のユニット会議で意見や提案を聞く機会を設けているが、以前毎月行われていたユニット会議が人員の都合で3カ月に1度の開催になった為、職員個々に意見を聞く様にはしているが、充分とは言えない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や希望休、年休の使用など整備されている部分はあるが、個々の努力や実績等の把握はされておらず、給与面にも反映されず、やりがいを持って働いている職員は少ない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人間的に難しい時期もあるが、出来る限り多くの職員を外部の研修に参加する機会を設けたり、必要に応じた内部研修を実施する様心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に施設長や課長が訪問等を行い交流をしている。職員は地域の施設の研修に参加し、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントを把握したうえで本人の不安や要望等を傾聴し、どのように安心して生活して頂けるかを考え関係づくりに努めていると共に問題がある時は、再アセスメントを行い対応の仕方を検討し全職員に周知し対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長、ケアマネージャー、管理者が面接時に細かく困っている事や要望を聞き取り、それをケアに反映させるようにし、安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時の聞き取りやアセスメントをふまえ、必要なサービスを見極めケアマネージャーが初期のケアプランの作成を行いご家族の同意をえて支援を開始している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に1人1人の人格を尊重しながら残存機能を活かし役割をもつことで充実した生活を送ることができる様に支援している。主に、職員と調理や食器の片付けや洗濯物たたみなどの家事作業や日常の会話等を通じ関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話等で定期的に連絡をとり情報の共有を行うと共に、何か問題が起きている時には家族とも相談しながら問題解決ができる様な関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事への参加や町内での外食、なじみの美容院への送迎等を通じ関係性を保てる様努めている 友人のホームへの来訪なども自由に行ってもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者様1人1人の性格や入居者様同士の関係性を把握したうえで職員が介入し、良い関係性が保たれる様、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入院先のお見舞いや葬儀、法事への参加を行っている。又、町で会ったときには挨拶をしたり近況を聞いたりし関係性を保てるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉だけではなく日常の様子などからも本人の思いを把握し、出来る限り本人の希望に添える様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族からの情報で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや日々の介護記録を通じ把握に努めている。又ユニット会議時の職員の意見交換や年に1度のセンター方式の記入でも状況の把握をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー、プラン担当者が一緒に検討し毎月のモニタリングを参考に介護計画を作成している。3ヵ月に1度のサービス担当者会議で全職員で介護計画について話し合う機会をもうけている。定期的にケアマネージャーはご家族や医師、理学療法士とも話し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に1日の様子に状態を記録職員間で情報の共有をしており、その他気づいた事などをノートに記入し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの訪問や小学生のとの交流をおこなっており、地域との繋がりを感じ楽しんで生活が送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に添い、かかりつけ医をきめて頂き、町内の受診はホームで対応している。町外に関しては原則はご家族対応になっているが、医師への手紙などで状況を報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護師は不在で医療連携もしていない為、できていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院と密に連絡をとるように心掛け、退院後の対応などについて相談する様努めているそれに備えた関係づくりまではしていない。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族や医師とは話合う事はできているが、どこまでホームで出来るのかとの所では施設としての方針や体制が整っていないため今後の課題である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や研修会など行っているが、全ての職員が実践できる様、さらに訓練に力をいれる必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施や災害時の緊急連絡網を作成している。昨年は消防、役場、地域住民を交えた避難訓練を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員に周知される様徹底し実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分提供時や外食時に本人の希望に添った支援ができるよう支援している。日常の生活においても自己決定の機会を作るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケア理念に添い1人1人のペースで支援するように努めてはいるが、業務の都合上、職員の都合で支援している時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	西棟ケア理念にも掲げており、個人個人に合った身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ケアプランに調理や片付け等取り入れたり、プラン外でも日常的にも状況に応じた声かけをおこなっている。又、定期的にバイキング行事を開催し好きなものを楽しんで食べて頂く機会を提供している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	内部研修で栄養学を学ぶ機会をつくりバランスのよい食事作りを心掛けている。汁物は塩分計を使用し0.7%以下に統一している。食事量については1人1人の状態に合わせて提供している。水分量は脱水にならない様、医師とも相談し1日1200cc位飲んで頂ける様支援している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをおこなっている。自分で出来る方は見守りのみ行い、介助の必要な方はその人に合わせた介助をおこなっている。義歯を使用している方は毎日夕食後に洗浄剤を使用し清潔の保持をおこなっている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用者は増えており、なかなか減らす事は困難であるが、それぞれの排泄パターンを把握し適時にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄回数を増やせるよう支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食材の提供や毎日の体操をおこない便秘の予防に努めている。それでも便秘の方は医師に相談し下剤などで対応している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は火、金曜日の週2回の予定で入浴して頂いているが拒否や希望があったときはいつでも対応できるようにしている。現在は他の日に希望する方はいない。外出や体調不良時は本人の都合に合わせて入浴できている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人に合わせた居室の温度設定や照明の明るさなど工夫し安心して眠れるようにしたり、定期的にリネン交換をおこない気持ちよく眠れる様支援している。又1人1人の習慣や体調に合わせて休息して頂いている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	種類や副作用については個人ファイルでいつでも見る事ができるようにしている。症状の変化があれば医師に確認し指示をあおいでいる。ただし全職員が全て理解しているには至っていない。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人が自分の役割をみつけ充実した日々がおくれるよう支援している。又、行事や外食、ドライブやカラオケなどを行い、楽しみや気分転換に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	業務の都合で毎日は希望に添う事は難しいので、外出行事やケアプランを活用し支援出来る様努力している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自分で金銭管理をおこなっている入居者はいないが希望があればご家族とも相談し支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話や手紙の支援をしている。又、家族から贈り物が届いたときなどは職員が電話する事をすすめて支援をおこなう事もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂ける様ユニット内の飾りつけ等を出来る範囲で工夫して行っている。 常に清潔を心掛け、温度や湿度も快適な状態を保てるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの置き場所等を工夫し好きな場所でくつろいで頂ける様にしている。フロア内だけではなく、ラウンジにもテレビやイスを設置し1人で過ごしたり、気の合う入居者で過ごせる様工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談し、使い慣れた家具などを置き居心地よく過ごせるように工夫している。また担当職員と作った作品や写真などを飾ったりし生活感を出せる工夫も出来る範囲ではあるがおこなっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーになっており、手すりの設置もあり、安全面に配慮した造りになっている。 トイレや浴室には表示をし、わからない入居者様にはさりげなく声かけや誘導をおこなっている。		